

作成 令和4年12月21日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第4回定例会一般質問

～本会議3日目・令和4年12月20日～ 議事録(抜粋)

6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

質疑概要

今年10月に保護者の方から、マスク着用の弊害から子ども達を守る取組み推進に関する要望書が教育委員会へ提出された。要望書への教育委員会の対応として、マスク着用の弊害、着用の有無に係る差別、コミュニケーション阻害の黙食等について、どうされたのかを確認するため質疑を行った。

○松本議員

6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校における対応について、今年10月に保護者の方から、マスク着用の弊害から子ども達を守る取組み推進に関する要望書が教育委員会へ提出されました。

そこには、長時間にわたるマスクの着用は頭痛、熱中症、皮膚炎、そしてコミュニケーション阻害といった問題があると書かれています。

そこでマスクをつけることの児童・生徒へのデメリットについて、教育委員会の見解をお聞かせください。

(略※)

○福住議長

教育総務部長

○教育総務部長

マスクをつけることの児童生徒へのデメリットについて教育委員会の見解についてのご質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症防止の対策としての学校におけるマスクの着用は、大阪府教育庁から示されている「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」に基づき、2mを目安とした身体的距離や屋内・屋外、会話をするか、しないか等の状況に合わせて取り組んでいるところです。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

しかしながら、2年以上続くコロナ禍において、マスクを着用することで、相手の表情を読み取りにくく、コミュニケーションが円滑に取れないということがあったり、それが原因で誤解を招きトラブルに発展してしまうことがあったりすると学校から報告を受けております。

また、マスクの着用により呼吸がしづらくなることもあり、とりわけ気温・湿度が高くなる夏季のマスク着用は、熱中症のリスクが高まる恐れがあります。

これらは、マスクをつけることでの子どもたちにとってのデメリットとして捉えております。

(略※)

○松本議員

最後に、マスク着用の弊害について、子ども達にとって多くのデメリットがあり、酸素不足での頭痛、そして脳の成長への悪影響も懸念されています。

さて、この弊害について教員は認識されておられるのか、また学校としてどう対応しているのかお聞かせ下さい。

○福住議長

教育総務部長

○教育総務部長

学校現場でも同じく、マスクを着用することで、コミュニケーションを取りづらくなることや、それに起因したトラブルが生起する事はマスク着用の弊害であると認識しております。

現在、学校においては、教員自身も大阪府教育庁の「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」に基づき、場面や状況に応じてマスクの着脱を行っておりますが、子どもや保護者の中にはマスク着用賛否双方の意見があるため判断に迷うことがあり、着脱が徹底しない現状があります。

市教育委員会としましては、現場の教員が判断に迷うことが無いよう、マスクの着脱について、より具体的に例示するなど検討して参ります。

また、学校においては、どうしてもマスクをつけることができないなど配慮が必要な子どもへの個別対応も同時に行っております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

教員が板挟みとなっていることは現場からもお聞きしています。

マスクをすることでの感染予防のメリットは現状では大きいとされますが、弊害が無くな

るものではなく、子ども達のためにその弊害を軽減することが求められます。それには各場面に応じた適切なマスク着脱が必要です。

例えば、エアロゾルは不織布マスクでもすり抜けます。飛沫を飛ばさないのであれば、マスクをしてもしなくても同じです。国の推奨通りで、屋外では不要ですし、屋内においても条件整えば、外すことができます。

そのうえ、不織布マスクは石油製品であり、長期間の着用ではマイクロプラスチックを呼吸器系に取り込む懸念が指摘されています。

子ども達は大人が着けているから、周りが着けているから着ける、という話をよくお聞きします。大人が行動しなければ子どもは変わりません。

是非、教育委員会としても着脱への具体的な例示を示すよう要望致します。

次に、保護者方からマスクが着用できない子どもをいじめや差別から守ることも要望されておりました。そこで差別防止への取組みについて、どうされたのかお聞かせ下さい。

○福住議長

教育総務部長

○教育総務部長

マスク着用に関わらず差別や偏見はあってはならないと考えております。各学校においては、マスクを着用していない方がいる場合、着用できない理由があるのではないかと児童生徒に考えさせ、相手の事情や背景を正しく理解するとともに、適切な行動が取れるよう指導をするよう、教職員に指示しております。

また、市教育委員会といたしまして安全安心メールや市ウェブページを活用し、保護者等を対象に情報発信をして参りました。

さらに、人権女性政策課がチラシを作成されたことを受け、校内で掲示するなどの対応を校長会等で指示し、啓発に努めております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

一定の対応がなされたことは評価致します。

人権女性政策課がチラシを迅速に対応したことも評価致します。引き続き徹底して防止を図られるよう要望致します。

さて、次にコミュニケーション阻害として問題となった給食時の黙食についてですが、文科省から11月29日に事務連絡で、黙食緩和に関するお知らせがありましたが、市内小中学校における対応についてお聞かせ下さい。

○福住議長

教育総務部長

○教育総務部長

これまで市内小中学校におきましては、「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」に基づき給食時は黙食を行って参りました。

現在は、令和4年11月30日付で大阪府教育庁より示された「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更」に係る通知に基づき、市教育委員会より給食時には「大声での会話を控える」とし、手指衛生や座席配置の工夫、適切な換気の確保の措置を講じれば、黙食とする必要は無いことを各校に指示し、順次進めております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

黙食の緩和ですが、一部でまだ実施されていないというお話もお聞きします。現場の進捗状況をしっかりと把握し、進められるよう要望致します。黙食を強いる根拠はもはやございません。

最後に、要望書を提出された保護者方は、マスク着用の弊害により、子ども達の健全な成長が阻害されていると強い危機感を抱かれています。弊害が分かってきた今、アフターコロナも見据え、マスクを外せる環境をそろそろ構築していくべきではないでしょうか。

この問題、総括的に教育長からお考えをお聞きしたいと思います。

○福住議長

教育長

○箸尾谷教育長

令和2年3月、文科省から突然、全国一斉臨時休校という通知がおりまして、それから2年9カ月の長きにわたり、学校は本当にこの新型コロナウイルス感染症対策を余儀なくされました。その中で、学校行事の規模縮小、あるいは中止、もとよりですね。今、議員のご指摘のありましたマスクに関してもですね、入学以来一度もマスクを外した友達の顔を見たことの無い。あるいはマスクを外して自分の顔を友達に見せることをためらう、女子に多いのですが、そういう児童生徒も出てきていることは十分に承知いたしております。

先ほど、担当部長から説明いたしましたように、本市のですね、新型コロナウイルス感染症対策は文部科学省作成の衛生管理マニュアルに基づきまして大阪府が作成しました対策マニュアルに基づいて、実施をしております。

感染症というのはですね、子どものみならず、そのご家族の健康に迄影響を及ぼす危険性

があります。先ほど、議員も仰いましたけど、感染症対策というのは、教育で考える内容ではなくて、やはり医学的見地から判断して頂く必要があるのではないかと考えておりました、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議といったような医学的な専門家が集まって、検討された国並びに府のマニュアルに従って、実施しているところです。

現在実施しております体育時のマスクの着用、あるいは先ほど議員のご指摘のありました黙食の対応につきましても、このマニュアル自体が改訂されましたことから、各学校に通知をしたところでありますが、まず教員が範を示すべきではないか、というご指摘も頂きました。この事につきましては、真摯に受け止めて、学校に周知して参りたいと思います。

ただ、やはりこの新型コロナウイルス感染症につきましては、様々なお考えの児童・保護者の方がおらっしゃいますので、やはり丁寧に、対応していく必要があるというふうに考えております。以上でございます。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

ありがとうございます。

この問題につきましては、マスク着用の弊害をもっと教員、保護者、そして地域の方、大人がしっかりと理解する必要がございます。

これは小中学校だけの問題ではなく、社会的問題であり、子ども達の健全な成長のためにも大人がまずしっかりと行動していくことが求められます。教育委員会としても宜しくお願い致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<一般質問・項目一覧>

- 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について
- 2 新型コロナワクチン接種
 - (1) 副反応による健康被害と情報提供について
 - (2) 制度開始から過去最多の健康被害認定と救済制度申請への支援について
 - (3) 乳幼児接種等への希望申請制について
- 3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について
- 4 子どもの居場所づくりの強化について
- 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について
- 6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]